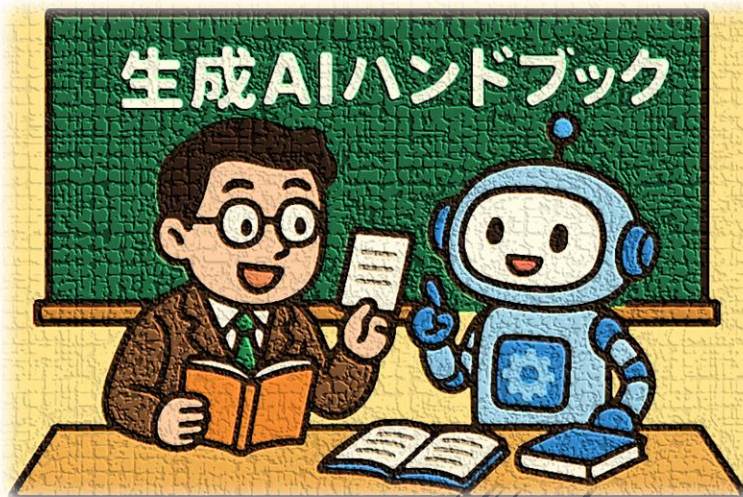


# かごしま「生成AI活用」ハンドブック

～学校と家庭での安心・安全な使い方～



鹿児島県教育庁総務福利課

教育DX推進室

令和8年4月

※ジャンプしたい項目にマウスカーソルを合わせクリックすると該当のページにジャンプします。

※各ページの右下にある  をクリックすると、目次のページに戻ります。

## 目 次

1 目的 .....	2
2 利用促進のために .....	2
3 教育的価値と可能性 .....	3
4 利用環境の整備 .....	3
5 法令・ガイドラインと安全な使い方 .....	4
6 リスクと情報モラル教育 .....	4
7 利活用に当たって児童生徒等の利用者に伝えること .....	5
8 プロンプトの工夫と事例 .....	5
9 学習での利活用方法(例) .....	6
10 校務での利活用方法(例) .....	6
11 トラブル対応(Q&A) .....	7
12 最後に .....	8
<参考資料>	
○学校での生成AI利用チェックリスト .....	9
○家庭での生成AI利用チェックリスト .....	9
○参考となるサイト・動画等 .....	10

※ハンドブック中のイラストは、Microsoft Copilot で作成しました。

### ○更新履歴

作成・更新日時	版次	作成・更新内容
令和8年4月1日	初版	新規作成



## 1 目的

生成AIの技術が進化し、急速に社会に普及している中において、生成AIをツールとして正しく使いこなすスキルは、今後、様々な分野において必要不可欠なスキルになると想定される。一方で、生成AIは、ハルシネーションや偏見・差別等を含んだ出力をすることがあるなどのリスクがあるとの指摘もある。

このような中、保護者の十分な理解の下、生成 AI を取り巻く懸念やリスクに十分な対策を講じることができる学校においては、県教育用アカウントを使って、児童生徒に利用させることができるものとしている。

生成AIは教育現場に革新をもたらす可能性を秘めたツールであり、児童生徒の学びを支援し、教職員の業務効率化を図るため、積極的かつ適正な活用を推進する。

本ハンドブックは、学校現場において、生成AIを安心して使用する環境を整え、利活用が進むことを目的として作成したものである。

## 2 利用促進のために

生成AIは、教育現場における学びの質と効率を高める革新的なツールとして注目されている。児童生徒の学習活動においては、創造的な発想を促し、自らの考えを言語化・構造化する力を育む支援が可能となる。例えば、文章の構成案や要約の作成、探究活動における情報収集の補助など、思考の可視化と深化が可能になる。

また、児童生徒に多様な視点や表現に触れさせることで、批判的思考力や情報の信頼性を判断する力の育成にもつながる。

さらに、生成AIの活用により、児童生徒の理解度に応じたフィードバックを得ることができ、一人一人の学習スタイルに応じた支援が可能となり、学びの自律性と主体性を高めることが期待される。

また、教職員にとっても、生成AIは業務の効率化を図る有力な手段となる。例えば、教材作成や通知文の草案、事務作業の補助などに活用することで、教員が児童生徒と向き合う時間を確保し、教育活動の質を向上させることができる。これにより、働き方改革の一環として、教職員の負担軽減と教育の持続可能性の確保にも資するものと考えられる。

このように、生成AIの活用は、児童生徒の資質・能力の育成と教職員の教育活動の充実の両面において、大きな可能性を秘めている。今後、教育現場において適切かつ積極的に活用することで、より豊かな学びの環境を構築することが期待される。

<生成 AI を利用する前に確認しておく最低限のこと>

- ☑児童生徒の個人情報や個人情報を直接入力したり、個人情報が記載された文書データを読み込ませたり、アップロードしたりすることは、情報漏洩に繋がる可能性がある。
- ☑情報セキュリティの確保の観点から、児童生徒が特定できるような成績情報等を入力してはいけない。
- ☑教育及び校務で利用する生成 AI は、県域教育用アカウントでログインできるものであることに加え、入力データが AI モデルの学習に使用されないものである必要がある。

### 3 教育的価値と可能性

生成AIは、児童生徒の学びを深める強力なパートナーとして、主に次の教育的価値が期待される。

- 創造性の育成：自由な発想を促し、自分の考えを形成する力を育てる。
- 探究心の醸成：問いを立て、情報を収集・整理し、考察する力を支援する。
- 情報活用能力の向上：多様な情報を比較・検証し、信頼性を判断する力を育てる。
- 個別最適な学びの支援：学習履歴や理解度に応じたフィードバックが可能である。

これらの価値を最大限に引き出すために、生成AIを教育活動の中で適切に位置付け、活用していくことが重要である。

### 4 利用環境の整備

生成AIを安全かつ効果的に活用するためには、学校と家庭の双方で一定の前提条件を整えることが重要である。まず、学校においては、教育委員会が定める教育情報セキュリティポリシー等を確認し、教職員・児童生徒・保護者に周知することが不可欠である。特に、個人情報の保護や著作権に関する法令遵守、生成AIの利用目的、禁止事項などを明文化し、児童生徒が誤った使い方や不適切な利用を防ぐ体制を整える必要がある。

令和8年3月現在、県域教育用アカウントで利用可能な生成AIのサービスには、それぞれ利用規定が定められており、一部の生成AIを除き、年齢制限があることに加え、児童生徒が利用するためには保護者への事前説明あるいは同意が必要なものがある。ただし、市町村立小中学校等の利用においては、各自治体での生成AI利用のガイドライン等に則した利用を行うこと。

- ・県域教育用アカウントでログインして使用することで、利用者の入力した情報が生成AIの学習に利用されない設定となる。(Copilot、Gemini、Canva for Educationの場合)
- ・著作権等に配慮すること(生成AIで作成したものであっても、既存の著作物とよく似通っていたり、入力するプロンプトによっては著作権侵害となる場合もある。)
- ・学習目的の範囲を超えて利用しない。
- ・個人情報を入力しない。
- ・他人の画像を許可なく生成AIに学習させたり、加工したりしない。(肖像権を侵害しない)

## 5 法令・ガイドラインと安全な使い方

生成AIを学校や家庭で活用する際には、法令の遵守とガイドラインに基づいた安全な利用が不可欠である。まず、個人情報保護法や著作権法などの関連法令を理解し、適切に対応することが求められる。例えば、児童生徒や教職員の氏名、住所、写真などの個人情報を生成AIに入力することは厳禁とする。

文部科学省は「[初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン\(Ver.2.0\)](#)」を公表し、学校現場での基本的な考え方と留意点を示している。このガイドラインでは、生成AIを教育活動に取り入れる際には、学習指導要領に沿った目的で活用すること、児童生徒の主体的な学びを損なわないこと、そして情報モラルや批判的思考力の育成を重視することが強調されている。また、生成AIの利用は「目的達成のための手段」であり、利用自体が目的化しないよう注意が必要である。

安全な使い方としては、以下の点が重要である。

- ① 入力する情報は匿名化し、個人を特定できる内容を含めないこと。
- ② 生成された内容の正確性や偏りを必ず確認し、誤情報の拡散を防ぐこと。
- ③ 利用するサービスの利用規約や年齢制限を遵守すること。

さらに、学校では、トラブル発生時に対応できる体制を整えることが望まれる。生成AIは便利なツールである一方、誤情報やバイアス、著作権侵害などのリスクを伴う。これらのリスクを軽減するためには、教職員・児童生徒・保護者が共通理解をもち、ガイドラインに沿った適切な利用を徹底することが不可欠である。安全性と教育的効果を両立させるために、学校と家庭が協力し、責任ある活用を進めていくことが求められる。

## 6 リスクと情報モラル教育

氏名や住所、顔写真などの個人情報をAIに入力すると、情報漏えいや不正利用のリスクが高まる。学校や家庭では、入力する情報を匿名化し、個人を特定できる内容を含めないようにすることが重要である。このようなリスクを回避するためには、情報モラル教育の充実が不可欠である。児童生徒に対しては、生成AIの仕組みや限界、リスクを理解させるとともに、適切な利用方法を指導する必要がある。例えば、授業で生成AIが出力した誤りを含む回答を教材として活用し、その問題点を議論することで、批判的思考力を養うことができる。また、著作権やプライバシーに関する事例を取り上げ、実践的な判断力を育成することも効果的である。

生成AIは、正しく使えば学習を支援する強力なツールとなる。しかし、その利便性の裏に潜むリスクを理解し、情報モラル教育を通じて安全で責任ある利用を促すことが、学校と家庭に求められる。※ 生成AIのリスク等に関する動画が文部科学省のHPに掲載されているので、職員研修等で活用し理解を深める。

([https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/1368445.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1368445.htm))

## 7 利活用に当たって児童生徒等の利用者に伝えること

- ・ 最初の授業で、生成AIのリスクや利活用するに当たっての条件について必ず児童生徒に伝えるとともに、その後も、折に触れて注意喚起する。
- ・ 生成AIに全てを委ねるのではなく自己の判断や考えが重要であることを十分に認識させる。
- ・ 生成AIの利用目的を明確にし、学習や調べ学習の補助として活用することを指導する。過度な依存を避け、自ら考える力を損なわないよう、生成AIを「答えを得るための手段」ではなく、「学びを深めるための補助」として位置づけることが重要である。
- ・ 生成AIの出力結果に不適切な表現や誤りが含まれる場合があることを理解させ、その際には必ず大人に相談するよう指導する。

## 8 プロンプトの工夫と事例

生成AIを効果的に活用するためには、入力する指示文（プロンプト）の工夫が重要である。プロンプトとは、生成AIに対して「何を、どのように」生成してほしいかを伝える文章のことである。プロンプトの質によって、生成される内容の正確性や具体性が大きく変わるため、適切な指示を与えるスキルを身に付けることが求められる。

まず、プロンプト作成の基本は「明確・具体・簡潔」である。曖昧な指示では、生成AIは意図を正しく理解できず、期待する結果が得られない場合がある。例えば、「歴史について教えて」のような曖昧な問いではなく、「日本の明治時代の教育制度について、200字程度で説明してください。」といった具体的な条件を加えることで、より目的に沿った回答が得られる。

次に、条件や視点を追加することも有効である。例えば、「小学生にも分かるように」、「箇条書きで」、「図解のイメージを含めて」など、形式や対象を明示することで、学習者の理解度に応じた出力が可能になる。また、複数の要素を組み合わせることで、より高度な活用ができる。例えば、「英語の過去形の使い方を、中学生向けに、例文を三つ挙げて説明してください。」という指示は、学習目的に直結した出力を得るために有効である。教育現場での事例としては、次のような活用が考えられる。

- ・ 国語科：「小学校5年生で夏目漱石の坊ちゃんを扱います。登場人物の特徴を三つずつ挙げてください。」
- ・ 理科：「水の三態変化について、小学5年生向けに、図をイメージしながら説明してください。」
- ・ 英語科：「海外旅行での買い物場面における英会話の例文を5つ作成し、日本語訳を付けてください。」
- ・ 総合的な学習の時間：「地域の伝統行事について、調べ学習のための質問リストを10個作成してください」

このように、プロンプトを工夫することで、生成AIは学習支援や教材作成において強力なツールとなる。適切なプロンプトを活用することで、主体的・対話的で深い学びを実現することが可能になる。

## 9 学習での利活用方法（例）

教科・領域	活用例	指導上の留意点
国語	自分で書いた文章の要約や感想文の構成案の校正・修正	プロンプトに校正、修正の視点を示すとともに、出力された結果を自分で見直すことを指導する。
社会	社会問題に対するディベートにおいて、自分の考えを元に議論のシミュレーションを行う	出力された情報の正確性を検証することを指導する。
算数・数学	「かけ算のクイズを作って」と依頼し、楽しみながら学習する	計算過程を省略しないよう、AIは補助的に使わせる。
理科	難しい用語や定理・法則を説明してもらう。	生成AIによる説明は簡略化されすぎる場合があるため、必ず教科書等で確認させる。
英語	英作文のアイデア出し	文法や表現内容について確認を行わせる。
総合的な学習の時間(探究)	探究テーマに関する情報収集	出典の確認と引用のルールを事前に指導する。

※ 児童生徒の発達の段階等に十分に配慮する。(特に小学校の早い段階での利用については、利用の仕方等について事前に十分に検討すること。)

## 10 校務での利活用方法（例）

- ・ 文書作成の効率化  
校内通知、保護者向け案内文、研修案内などの下書きを生成AIで作成し、教員の負担を軽減する。
- ・ 会議資料や議事録の作成  
会議の要点を入力し、AIに整理させることで、議事録や報告書を迅速に作成できる。
- ・ 校務分掌業務のサポート  
年間行事計画や安全管理マニュアルのたたき台をAIで作成し、教員間で共有・修正する。
- ・ 保護者対応文例の作成  
欠席連絡への返信や学校行事の案内など、定型的文章をAIで生成し、迅速な対応を可能にする。
- ・ 研修資料や説明資料の作成  
教育DXや情報モラルに関する研修資料をAIで作成し、教員研修の準備時間を短縮する。

## 11 トラブル対応 (Q&A)

Q1 生成AIが誤った情報を出力しました。どうすればよいですか？

A 生成AIの回答は必ずしも正確ではありません。必ず複数の情報源で確認し、誤りがあれば修正してください。授業で活用する場合は、誤情報を教材として取り上げ、批判的に検討する学習機会とすることも有効です。また、プロンプトに引用元を示すことを付け加え、引用元の情報を確認することも大切です。

Q2 児童生徒が個人情報を入力してしまいました。どう対応しますか？

A 県域教育用アカウントを使用している場合は、学習されない設定になっているため、対応の必要はございませんが、再発防止のためのルールを再度周知し、情報モラル教育を徹底してください。

Q3 生成AIが不適切な表現や画像を出力しました。どう対応しますか？

A その出力を使用せず、スクリーンショットなどで記録した上で、管理者や教育委員会に報告し、原因究明と再発防止策を検討してください。また、意図的に不適切な出力をさせるようなプロンプトを入力することは、「プロンプトインジェクション※」と呼ばれる行為であり、場合によっては、法律に触れる行為であることを理解させることも大切です。

※生成 AI への指示文(プロンプト)に悪意ある命令を紛れ込ませ、AI の本来の動作や設定された安全性を迂回・無効化させ、機密情報の漏洩、不適切な内容の生成、システム乗っ取りなどを引き起こすサイバー攻撃手法のこと。

Q4 著作権侵害の可能性がある生成物を児童生徒が提出しました。どう指導しますか？

A 生成AIで作成した生成物が、既存の著作物に類似する場合、他者の権利を侵害することになる等、児童生徒には、著作権の基本を理解させるとともに、生成物をそのまま提出するのではなく、自分の考えを加えるようにすることを指導してください。

Q5 家庭での利用状況が把握できず、保護者から不安の声があります。どう対応しますか？

A 学校便りや保護者会等で、生成AIの特徴やリスク、家庭での利用ルール(利用時間・目的・保護者の見守り等)を共有してください。学校と家庭が連携し、共通理解の下、児童生徒の利活用を促すことが重要です。

Q6 課題を生成AIが出力したものを提出しようとしてしまいました。どう対応すればよいですか？

A 事前の指導において、生成AIは学習の補助としての活用とし、児童生徒が学習の主体であることを理解させましょう。また、生成AIをどの段階でどのように活用したのかを明記させて、課題と一緒に提出させる方法もあります。

## 12 最後に

- ・文部科学省の策定したガイドラインも参照する。

[https://www.mext.go.jp/content/20241226-mxt\\_shuukyo02-000030823\\_001.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20241226-mxt_shuukyo02-000030823_001.pdf)

- ・県総合教育センター指導資料も参考にする。

<https://sites.google.com/kago.ed.jp/kagostudx-training/%E6%95%99%E8%82%B2%E3%81%AE%E6%83%85%E5%A0%B1%E5%8C%96%E6%8E%A8%E9%80%B2/%E7%94%9F%E6%88%90ai%E3%81%AB%E3%81%A4%E3%81%84%E3%81%A6>

- ・下記のように、発達段階に応じて事前・事後指導を行う。

- 小学生が利用するにあたって<探究の入り口>

- ・保護者の同意を必ず得た上で活用すること。
- ・生成AIの利用目的を明確にし、遊びではなく学習の一環として位置づけること。
- ・生成AIは、あくまでも道具であり、生成AIにより生成されたものが必ずしも最適なものであるとは限らず、最終的な判断は利用者がすることを徹底して指導すること。
- ・活用時には教員が常に伴走し、児童の操作や出力内容を確認すること。
- ・誤った情報（ハルシネーション）に対して、正しい情報との比較・検証の機会を設けること。
- ・個人情報や学校名などを入力しないよう、繰り返し指導すること。

- 中学生が利用するにあたって<思考の補助>

- ・利用にあたってのルールやマナーを生徒と共有し、責任ある使い方を促すこと。
- ・出力された情報の信憑性を自ら判断できる力を育めるように指導すること。
- ・教科毎の活用場面を明確にし、目的に応じた使い方をすること。
- ・他者の著作物を無断で使用しないよう、著作権教育と併せて指導すること。
- ・生成AIに依存せず、自分の考えを持つことの重要性を繰り返し伝えること。

- 高校生が利用するにあたって<創造のパートナー>

- ・自律的な活用を促す一方で、リスク管理の視点を持たせること。
- ・レポートや課題での活用時には、出力内容の出典や根拠を明示するよう指導すること。
- ・生成AIの出力を鵜呑みにせず、様々な情報源から事実を検証する姿勢を育てること。
- ・進路指導や探究活動など、個別性の高い場面での活用の際には、個人情報の扱いに十分注意すること。

## 学校での生成AI | 利用チェックリスト

### 1 準備段階

- 学校または教育委員会のガイドラインを確認し、教職員に周知した
- 利用する生成AIサービスの利用規約・年齢制限を確認した
- 個人情報や著作権に関するルールを確認した
- 利用端末やネットワークにフィルタリング・セキュリティ対策を実施した

### 2 利用時のルール

- 個人情報(氏名・住所・写真など)を入力しないよう指導した
- 出力結果の正確性を必ず確認するよう指導した
- 不適切な出力があった場合の報告ルートを明確にした
- 利用目的を「学習支援」、「校務効率化」に限定した

### 3 指導・教育

- 児童生徒に「AIの回答は必ずしも正確ではない」ことを説明した
- 情報モラル教育の一環として、生成AIのリスクと安全な使い方を指導した
- プロンプト(指示文)の工夫や適切な質問の仕方を指導した

### 4 安全管理

- 利用履歴を記録し、必要に応じて確認できる体制を確認した
- トラブル発生時の対応手順を確認した
- 保護者に利用方針を説明し、家庭での利用ルールを共有した

## 家庭での生成AI | 利用チェックリスト

### 1 準備段階

- 保護者が生成AIの特徴やリスクを理解している
- 利用するサービスの利用規約・年齢制限を確認した
- 家庭での利用目的(学習支援など)を明確にした
- 利用時間や頻度に関するルールを設定した

### 2 利用時のルール

- 個人情報(氏名・住所・写真など)を入力しないよう子どもに指導した
- 出力結果をそのまま提出せず、自分の考えを加えるよう指導した
- 著作権や肖像権を侵害しないよう注意を促した
- 不適切な出力があった場合は、必ず保護者に相談するよう伝えた

### 3 見守り

- 利用状況や目的を把握した。特に、小学校段階ではできるだけ保護者が近くで見守るなど、親子で一緒に利用する
- 利用履歴や生成内容を定期的に確認する
- 子どもがAIに過度に依存していないか観察する

### 4 安全管理

- 利用する端末にフィルタリングやセキュリティ対策を実施した
- トラブル発生時の対応(サービスへの削除依頼・学校への連絡)を把握している
- 学校と連携し、利用ルールや注意点を共有している

□参考となるサイト・動画等



<https://leadingdxschool.mext.go.jp/achieve/ai/>

**生成A Iパイロット校実践事例集（文部科学省）**



[https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGsGZ3lmbA0d2f-4u\\_Mx-BCn13GywDI](https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGsGZ3lmbA0d2f-4u_Mx-BCn13GywDI)

**情報化社会の新たな問題を考えるための教材（文部科学省）**



[https://www.soumu.go.jp/use\\_the\\_internet\\_wisely/](https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/)

**上手にネットと付き合いおう！ 安心・安全なインターネット 利用ガイド（総務省）**



↓YouTube サイトにつながります

<https://www.youtube.com/watch?v=0wicstAyE&list=PLp-uZXYRIr9J-mvDI1-PYmraoilOUvxUj&index=2>

**Copilot（教師用）**



↓YouTube サイトにつながります

<https://www.youtube.com/watch?v=KyOtl6UVTE&list=PLp-uZXYRIr9J-mvDI1-PYmraoilOUvxUj&index=4>

**Gemini（教師用）**



↓YouTube サイトにつながります

<https://www.youtube.com/watch?v=XgLmpungFCU&list=PLp-uZXYRIr9J-mvDI1-PYmraoilOUvxUj&index=3>

**Gemini（児童・生徒用）**